

家問2 行方不明時の年齢 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問2 行方不明時の年齢	65～69歳	3	1	4
	70～74歳	5	7	12
	75～79歳	5	5	10
	80～84歳	11	9	20
	85～89歳	2	8	10
	90～94歳	0	1	1
合計		26	31	57

家問3 行方不明者の性別 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問3 行方不明者の性別	男性	11	21	32
	女性	15	10	25
合計		26	31	57

家問5 行方不明前の体重の変化 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問5 行方不明前の体重の変化	あり	5	4	9
	なし	15	20	35
	わからない	6	7	13
合計		26	31	57

家問6_BI Barthal Index Score と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問6_BI Barthal Index Score	35	0	1	1
	45	0	2	2
	60	1	0	1
	70	0	1	1
	75	1	0	1
	85	2	1	3
	90	4	3	7
	95	2	1	3
	100	7	9	16
	合計		17	18

家問6_iADL iADL Score と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問6_iADL iADL Score	0	3	7	10
	1	3	9	12
	2	1	0	1
	3	7	6	13
	4	6	4	10
	5	1	1	2
	7	1	0	1
	8	1	0	1
合計		23	27	50

家問7 行方不明時の居所 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問7 行方不明時の居所	自宅 一人暮らし	3	0	3
	自宅 同居者あり	21	31	52
	施設 認知症対応型グループホーム	1	0	1
	病院 一般病床	1	0	1
合計		26	31	57

家問8 自宅の居住期間 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問8 自宅の居住期間	認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない	19	25	44
	認知症（疑いを含む）になる前から住んでいたが、改築した	5	1	6
	行方不明になる前に転居してきた	0	5	5
合計		24	31	55

家問9 行方不明時の世帯状況 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問9 行方不明時の世帯状況	夫婦のみの世帯	8	9	17
	夫婦と未婚の子のみの世帯	2	9	11
	ひとり親と未婚の子のみの世帯	3	0	3
	三世代世帯	4	6	10
	その他の世帯	6	7	13
	わからない	1	0	1
合計		24	31	55

家問10 老老介護 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問10 老老介護	そうである	8	19	27
	そうではない	14	11	25
	わからない	1	0	1
	無回答	1	1	2
合計		24	31	55

家問11 認認介護 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問11 認認介護	そうである	1	3	4
	そうではない	22	28	50
	わからない	1	0	1
合計		24	31	55

家問12 本人以外の認知症の人 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問12 本人以外の 認知症の人	そうである	3	4	7
	そうではない	20	27	47
	わからない	1	0	1
合計		24	31	55

家問14 介護保険の申請 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問14 介護保険 の申請	していた	16	24	40
	していなかった	9	7	16
	無回答	1	0	1
合計		26	31	57

家問15 要介護認定の結果 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問15 要介護認 定の結果	要支援1	3	1	4
	要支援2	3	7	10
	要介護1	1	2	3
	要介護2	1	3	4
	要介護3	4	7	11
	要介護4	1	3	4
	要介護5	2	0	2
	申請中	0	1	1
	わからない	1	0	1
	合計		16	24

家問18 認知症高齢者の日常生活自立度 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問18 認知症高齢者の日常生活自立度	自立（認知症ではなかった）	2	0	2
	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	7	9	16
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多々見られても、誰かが注意していれば自立できる	7	9	16
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする	4	3	7
	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	4	8	12
	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	1	2	3
	わからない	1	0	1
合計		26	31	57

家問19 障害高齢者の日常生活自立度 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問19 障害高齢者の日常生活自立度	自立	16	19	35
	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない	7	6	13
	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ	1	4	5
	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する	0	2	2
	わからない	1	0	1
	無回答	1	0	1
合計		26	31	57

家問23 行方不明時の認知症の診断・疑いと生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問23 行方不明時の認知症の診断・疑い	疑いも診断もされていない	3	1	4
	疑いはあったが診断はされていない	5	9	14
	診断されていた	17	21	38
	わからない	1	0	1
合計	26	31	57	

家問24 現在の認知症の診断と生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問24 現在の認知症の診断	認知症と診断されていない	0	2	2
	他界している	23	4	27
	わからない	0	3	3
	認知症と診断されている	2	22	24
	無回答	1	0	1
合計	26	31	57	

家問25 認知症を診断した医師と生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問25 認知症を診断した医師	精神科医	0	6	6
	神経内科医	1	6	7
	1～3以外の認知症に関する専門的な医師	0	5	5
	その他の医師	1	4	5
	複数回答	0	1	1
合計	2	22	24	

家問26 認知症の診断名と生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問26 認知症の診断名	認知症とだけ診断されている	1	9	10
	アルツハイマー病	0	11	11
	レビー小体型認知症	0	1	1
	前頭側頭型認知症	1	1	2
合計	2	22	24	

家問27 認知症の疑いをもった時期 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問27 認知症の 疑いをもった時期	50歳代	0	1	1
	60歳代	8	4	12
	70歳代	7	16	23
	80歳代	8	10	18
	わからない	2	0	2
	無回答	1	0	1
合計		26	31	57

家問27_y 認知症の疑いをもった年齢 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問27_y 認知症 の疑いをもった年 齢	61	1	0	1
	65	0	1	1
	67	1	0	1
	68	2	0	2
	73	1	1	2
	74	0	1	1
	75	0	1	1
	76	1	0	1
	79	0	1	1
	80	2	0	2
	85	0	1	1
	86	0	1	1
	無回答	18	24	42
	合計		26	31

家問28 認知症の疑いから受診までの期間 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問28 認知症の 疑いから受診まで の期間	～1年	9	17	26
	1～3年	5	8	13
	3～6年	2	3	5
	9～12年	1	0	1
	12～15年	1	1	2
	受診していない	3	1	4
	わからない	2	1	3
	無回答	3	0	3
合計		26	31	57

家問29 当時の受診状況と生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問29 当時の受診状況	当時通院していた	18	25	43
	当時往診を受けていた	2	0	2
	当時入院中であった	1	0	1
	受診歴はあったが中断していた	2	5	7
	わからない	2	1	3
	無回答	1	0	1
	合計	26	31	57

家問31 F A S T と生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問31 F A S T	ステージ1 認知機能の障害なし	3	0	3
	ステージ2 非常に軽度の認知機能の低下	5	3	8
	ステージ3 軽度の認知機能低下	2	3	5
	ステージ4 中等度の認知機能低下	3	6	9
	ステージ5 やや高度の認知機能低下	2	2	4
	ステージ6 高度の認知機能低下	7	11	18
	ステージ7 非常に高度の認知機能低下	4	4	8
	無回答	0	2	2
合計	26	31	57	

家問32 認知症の疑いから徘徊が始まるまでの期間と生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問32 認知症の疑いから徘徊が始まるまでの期間	～3年	13	14	27
	3～6年	1	13	14
	6～9年	4	1	5
	わからない	4	1	5
	無回答	4	2	6
合計	26	31	57	

家問33_1 これまでの行方不明回数 と 生死 発見時の生死 のクロス表
度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問33_1 これまでの行方不明回数	1回	12	7	19
	2回	3	5	8
	3回	2	3	5
	4~10回	4	8	12
	11~20回	0	3	3
	21回以上	0	3	3
	わからない	1	0	1
	無回答	4	2	6
合計		26	31	57

家問33_2 年間の平均行方不明回数 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問33_2 年間の平均行方不明回数	1	3	7	10
	2	1	3	4
	3	1	3	4
	5	1	0	1
	6	0	1	1
	10	0	2	2
	25	0	1	1
	30	0	1	1
	50	0	1	1
	無回答	20	12	32
合計		26	31	57

家問34 行方不明になった季節 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問34 行方不明になった季節	春	7	3	10
	夏	8	2	10
	秋	7	11	18
	冬	4	5	9
	わからない	0	1	1
	複数回答	0	4	4
	無回答	0	5	5
合計		26	31	57

家問35 行方不明になった時間帯 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問35 行方不明 になった時間帯	複数回答	0	3	3
	0～4時	3	1	4
	4～8時	2	2	4
	8～12時	3	2	5
	12～16時	6	7	13
	16～20時	8	10	18
	20～24時	1	1	2
	わからない	3	1	4
	無回答	0	4	4
合計		26	31	57

家問37_1 行方不明になる危機感 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問37_1 行方不 明になる危機感	感じていた	8	18	26
	感じていなかった	17	10	27
	わからない	1	0	1
	無回答	0	3	3
合計		26	31	57

家問38 行方不明になった場所 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問38 行方不明 になった場所	自宅から	22	23	45
	わからない	1	0	1
	自宅付近から	0	3	3
	それ以外から	3	3	6
	無回答	0	2	2
合計		26	31	57

家問39 行方不明になった場所 自宅以外の場所 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問39 行方不明 になった場所 自 宅以外の場所	商店など衆人のい る施設内	1	2	3
	人通りの多い路上	0	1	1
	人通りの少ない路 上	0	2	2
	その他	2	1	3
	無回答	0	2	2
	合計	3	8	11

家問40_1 行方不明になった時にしていたことと生死 発見時の生死のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問40_1 行方不明になった時にしていたこと	散歩などいつも決まった行動中	4	6	10
	わからない	7	4	11
	それ以外	15	18	33
	無回答	0	3	3
合計		26	31	57

家問47 行方不明後、警察に行方不明届が出されるまでの期間と生死 発見時の生死のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問47 行方不明後、警察に行方不明届が出されるまでの期間	当日	20	28	48
	翌日	4	3	7
	3～4日目	1	0	1
	1週間以内	1	0	1
合計		26	31	57

家問48 警察以外での捜索活動開始時期と生死 発見時の生死のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問48 警察以外での捜索活動開始時期	当日開始された	17	25	42
	翌日開始された	8	1	9
	3～4日目に開始された	1	0	1
	1ヶ月以内に開始された	0	1	1
	行われなかった	0	3	3
	無回答	0	1	1
合計		26	31	57

家問50 行方不明後、発見までの期間と生死 発見時の生死のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問50 行方不明後、発見までの期間	当日	4	16	20
	翌日	6	11	17
	3～4日目	2	2	4
	1週間以内	4	0	4
	1ヶ月以内	7	0	7
	半年以内	1	0	1
	1年以内	2	0	2
	無回答	0	2	2
合計		26	31	57

家問51 発見時の状態 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問51 発見時の状態	普段と変わりはない	0	18	18
	衰弱していたが歩行は可能だった	0	10	10
	衰弱し歩行不可能だった	0	3	3
	亡くなっていた	26	0	26
合計		26	31	57

家問52 発見された場所 と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問52 発見された場所	自宅内	1	0	1
	自宅の付近	5	3	8
	(2)自宅の付近よりは遠いが近所	1	5	6
	(3)2より遠いが、およそ普段移動する範囲	6	2	8
	(4)3より遠いが町村内	8	7	15
	4より遠いが、県内	4	10	14
	県外	1	3	4
	無回答	0	1	1
合計		26	31	57

家問53 発見した人と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問53 発見した人	実際に捜索に参加した者	12	13	25
	ご本人が自力で帰宅した	0	2	2
	届出した家族	0	1	1
	上記以外	12	13	25
	わからない	1	0	1
	複数回答	0	2	2
	無回答	1	0	1
合計		26	31	57

家問54 S O S ネット等の有効性と 生死 発見時の生死 のクロス表

度数

		生死 発見時の生死		合計
		死	生	
家問54 S O S ネット等の有効性	有効であった	3	4	7
	有効でなかった	3	4	7
	S O S ネット等は なかった	3	3	6
	S O S ネット等は 利用しなかった	5	11	16
	わからない	11	7	18
	無回答	1	2	3
合計		26	31	57

※自由記述は個人情報・固有名詞などを削除している。また、原則として記載されたまま掲載し、誤字脱字などの修正は行っていない。なお、固有名詞は修正の上でデータを提供されているので「●」と、判別不能の部分は「?」としてある。

問 13. 住まいに関する特記事項

- ① 自宅アパート大家
- ② 県営アパート4階で歩行が大変ですやっとなです。仲々思うように他の住まいに行けません。
- ③ 2013年10月、平屋を新築したが全く入居せず。
- ④ 自宅にいるのに夕方になると布団を玄関に持っていき帰りたいと言って座り込んでしまう。
- ⑤ 老朽化、伴侶が深刻なアルコール依存状態"
- ⑥ 妄想性のうつ病と言われて前に同居していた所から別の場所へきた。
- ⑦ 車庫の取り崩し、植木の切り倒し
- ⑧ 普通に毎日暮らしていた。ただし、夕食のみ家族全員で食べていた。
- ⑨ 引越す前に住んでいた所でも徘徊があり、何回も家族で捜し歩いた事あり。
- ⑩ 自宅を自分の家だと思っていない。
- ⑪ 主に妻とまご（女の子）の暮らしです。
- ⑫ 現住居には10年前に転居。行方不明発生時期より4年前頃から言動の異常が始まった様に記憶する。

問 20. 薬物の特記事項

- ① (薬) ジャヌビア錠、リバロ錠、プラピックス錠、デグレトール
- ② きちんと毎日飲んでおらず、のんだり、のまなかつたりしていました。
- ③ おこりっぽくなったので、途中でメモリーに変更する
- ④ (当時飲んでいた薬のその他で) プレタール、プラパスタチン、センノシド
- ⑤ レビイ小体型の治療投薬をうけていた。
- ⑥ 貼り薬を使用していたが、特に改善はされていなかった。
- ⑦ 薬がきらいで飲まない事もあった。
- ⑧ ドネベシル、リスパダール
- ⑨ 心臓と糖尿病の薬が主であった。
- ⑩ セロクエルを飲んでいました 1粒、あと眠剤を0.5粒
- ⑪ 通院により薬をもらっており内容不明
- ⑫ じんぞうの薬
- ⑬ 最後の回ではない。以前の回、メモリーを服用したら急激に悪化した。
- ⑭ 進行を遅らせる薬を飲んでいてはありますが、薬は大嫌いなので、30分以上掛け、本人、家族の心の戦いと成り飲ませるのを止めました。
- ⑮ 行方不明当時は糖尿病の薬 アマリール1mg、ジャヌビア50mg、グリコラン250mgを20年間程飲んでいて。行方不明になり精神科で現在、レミニールOD12mg、ビタノイリンカプセル、先月よりツムラ抑肝散エキス顆粒を服用中
- ⑯ メモリーを飲んだ事があるが体に合わずやめた。
- ⑰ 7/26 アムロジピン、メモリー、セロクエル、ツムラ顆粒、レザルタス、リスパダール、8/22 アムロジピン、メモリー、セロクエル、ツムラ顆粒、レザルタス、グラマリール、9/20 アムロジピン、メモリー、セロクエル、ツムラ顆粒、オルメテック、カルブロック
- ⑱ 漢方薬(抑肝散)と抗うつ薬(デプロメル)を飲んでいて、行方不明になる1ヶ月前から抗うつ薬を中止していた。

問 21. 薬以外の治療

- ① デイサービスを週に3回利用していた。
- ② 腰が曲がり通院していた。
- ③ 特に無し。朝デイに行き、夕方デイより帰る。
- ④ デイサービスにかよう予定でお試し中だった(何か所か)
- ⑤ 対応の仕方に気をつけた。「ユマニチュード」について紹介する番組を見て医師やケアマネに相談した。

問 22. 入院の特記事項

- ① 脳梗塞の為 2～3回
- ② 4日間行方不明になり始めて入院させてもらう。肺炎、けが、13年春頃より物等を投げ大変な思いをした。今の介護制度は理想ではないでしょうか。これからますます殺人事件など多くなりませんか。
- ③ 早朝に出歩き、左肩を骨折し手術を行った（H26年1月）。
- ④ 入院2回、6月、1月、精神科
- ⑤ 肺炎をおこし入院したが、ベッドからは落ちるし、つきそいをし、大変な入院生活であった。点滴のくだけはもちろんぬくし、目を離せなかった。
- ⑥ 脳動脈瘤で11日間入院

問 23. 徘徊時の特記事項

- ① 秋 昼間の時間が短くなる時期、雨の日 行方不明になった。
- ② 散歩のつもりで出かけてしまった。時々、夕方まで帰ってこなくなる事もあった。年に2～3回程、季節が暖かくなると出ていく。
- ③ デイの送迎がら帰り、又、自分でデイの場所に行く。歩いている間に解からなくなり、どんどん歩き遠い所へ行ってしまう。
- ④ 午前中が多い、天気の良い日、進む事もどりが出来ない。
- ⑤ ほとんどなし。4～500m位の所へ一度だけあった。
- ⑥ 季節は問わず、寝起き（朝方か昼寝後）
- ⑦ 朝から夕まで町内の決まったルートを徘徊するのが常態化
- ⑧ 放送してもらったのは2回。早朝に出歩き警察の方から連絡があったのが3回ぐらい。家族が捜しにいつて見つけることは何回もあった。
- ⑨ 初めて1人で買い物（ジュースを買いに）へ行ってもよいかと聞いてきたので。
- ⑩ 夜間にゴミ出しをして行方不明になる。
- ⑪ 徘徊はなかった。自宅の近所を散歩中、転倒により死亡。
- ⑫ 自宅から帰ると良く言う!!
- ⑬ 徘徊ではなく、車を脱輪させ、人を待っていたが動きだし、山で行方不明となる。
- ⑭ 不定期。メモリー服用後急激に悪化。
- ⑮ ほとんど毎朝とにかく出かける。最初の頃は尿失禁、便失禁もせず、しても夕方まではなんとか家に戻ってきてました。自分で家に戻る事が出来なくなったのは5～6年前から。”
- ⑯ 見つかった所がバラバラである。
- ⑰ 1～2日間
- ⑱ 徘徊というより、家に帰れなくなる。

問 36. 介護の特記事項

- ① 本人が独りだけで過ごす時間帯があった（田の稲を見に行く等）
- ② 母（妻）が1ヶ月前に亡くなり、2～3週間だが1人になった。
- ③ 行方不明になった当日は、自宅に帰っていて、子がいっしょにいました。
- ④ 長い間（3～4H）散歩を1人でする事があった。息子夫婦が仕事でいなくなる昼頃には1人で過ごしていた。
- ⑤ 特別な介護は行っていないが、通院に同伴する2km以上での車運転時は、同乗するか、先導する程度であり近くの商店への買物等は一人で車で買物に行っていた。
- ⑥ 今まで1度も徘徊などはなかったのも、本人が独りだけで過ごす時間帯があった。
- ⑦ 送迎のデイから帰り、その後、家の周囲を歩くうちに遠くまで行ってしまう。
- ⑧ 朝4:00頃、眠ってる時に。毎回居るか、見るが多い。
- ⑨ 独りだけの時間もあった。
- ⑩ 早朝で2月、窓から出ている時があった。
- ⑪ 家族で協力して行っていた。
- ⑫ 昼間は本人独りだけで過ごしていた。
- ⑬ 日中は本人が独りだけで過ごしていた。
- ⑭ 介護はしていなかった。認知症と気づいていなかった。
- ⑮ 介護者は何もできなくなった。
- ⑯ 冬は比較的少ない。朝食後すぐに出掛ける。一日中戻って来ない。介護負担が非常に大きかった。目が離せず、何もできず大変（当時は母も心臓が悪く、自宅介護をしていたので大変でした）。
- ⑰ 義母は大事に思わず、認知に関して理解が無い。危機感もないため介護が手薄。私が留守の間に出てしまう。

- ⑮ 介護は長男（子）の嫁、通所デイケア週3日～4日、利用負担が大きく精神的にきつい。
- ⑯ 単独で介ゴ。失禁、破かい、失火寸前などの始末中に外出する。もはや介ゴの体力は限界だった。
- ⑰ ヘルパーが朝、昼、夕、1時間づつ、姉2人がヘルパーのいない時間に1週間に3～4日、私が1週間に3日ほどとまっていた。

問 37. 行方不明の危機の認識の特記事項

- ① 道がわからなくなる。午後4時に家にいない時は、携帯に電話して探すようにしていた。午後6時にも帰らないので警察に捜索願を出した。だまって家を出ていくので目が離せない。
- ② 息子、嫁が危険と感じていた。散歩が長いと、年1回は、いつの間にか家を出て夕方まで帰ってこなくなる事があったため。
- ③ 今迄に徘徊等は実績がなかったので、突然の事であり、びっくりした。
- ④ ちょっと目を離した間に出かけてしまう。時には自宅の前を通り過ぎる時もあり。
- ⑤ ショッピングモール等で行方不明になることがあった。
- ⑥ 1度だけ私がトイレに入っていた時に、外へ出ていき、4～500m位はなれた畑にいた事があった。私が畑へ行ったと思い、「さがしに行った」と言っていた。他は外へ出て行く事はなかった。
- ⑦ 1度徘徊があつてからは2階ではなく同じ1階で寝るように。玄関の出入りを気にしていたため。
- ⑧ 肩の手術後、歩行が短距離になり、つきそいをしてもらって家の周りを少し歩くだけになっていたので予想外であった。
- ⑨ 隣近所では1時間位で帰ってきた。
- ⑩ 認知症が進んだ時に、近所を散歩していても、ちゃんと自宅に帰って来られるか少し不安があった。
- ⑪ 認知症が進むにつれて、いつか徘徊するかなあと子供たちが思っていました。
- ⑫ いつも心配で、家族は自分の生活ができなくなった。
- ⑬ とにかく、ちょっとした間に外に出る。夜間はもう大変でした。とにかく家の門より外に出たら自宅に戻る事がわからない為、目を離すことができずに本当に疲れた。夜間は部屋の本人の側に寝てたが、ちょっとした間に出てしまう。3年位前からは、現在、夜9時頃、医者から処方して頂いた安定剤を服用させてから休ませる様にしているが、時々それも効かずに何回も起きては、わけのわからぬ事を発して困ることもある状態です。
- ⑭ 車の運転はすぐにやめさせた。キーをとり上げてGPSを持たせる。常に外に独りで出ない様、気をつかう。
- ⑮ 友人宅に遊びに行くが、帰り道が判らなく成っていた事を後で知った。行っていた友人は知っていたようだ。
- ⑯ 1人でだまって家を出て行った。
- ⑰ そわそわしていた。あたたかい日だった。
- ⑱ 私が交通事故が心配でした。
- ⑲ 認識し、二重カギ等対応努力はしたが、対処しきれなかった。
- ⑳ 徘徊はほんのわずかの間にふいに家を出て行くものなので、常に気にしていなければならない。どんなに注意しているつもりでも、完ぺきに見守るのは難しい。

問 40. 行方不明時の状況

- ① 就寝中
- ② 買物に行ったと思っていた。
- ③ 配偶者とデパートに買物に行き、トイレから戻って来ない配偶者を探しているうちに脱水となり、自分自身が行方不明になってしまった。
- ④ 自宅の2階で探し物中。
- ⑤ 家に帰ろうとしていた。
- ⑥ 駅構内の混雑の中で
- ⑦ 外をながめていると思ったら、いつもカギを取り、ずっと居なくなる。一人でテレビの時
- ⑧ 朝6:30頃起きたら、ベッドにいなかった。
- ⑨ 病院帰り
- ⑩ 年賀状の住所を訪ねて出かけてしまった。
- ⑪ 徘徊
- ⑫ 家に居て急にジュースを買いに行つて良いかと聞かれて
- ⑬ ゴミ出し中、方向誤り
- ⑭ 夕食前
- ⑮ 山で車を脱輪させ、助けを求めて知人の所に歩いて（約1,000m）行き、留守のため、待っていた（約40分）が、もとの場所にもどろうとして近道の山中で行方不明になった。
- ⑯ 孫の子守をしていた時、ほんの数分の間に出られました（玄関は鍵をかけておいたのですが、開けて出られ

ました)。

- ⑰ たまには、私が出ていて、母がひるねをしているスキに。
- ⑱ 友人宅へ遊びに行ったらしい。行った事を介護者は知らなかった。
- ⑲ 用事が有ると言っているまにか出かけた。
- ⑳ 起床後すぐ
- ㉑ 自宅でくつろいでいた。
- ㉒ いつでも
- ㉓ 夜中に起き出して出かけた。私(妻)は就寝中で気付かなかった。
- ㉔ 会合に出掛けたが出席せず行方不明となる。
- ㉕ 失禁衣類交換後、始末中に行方不明。
- ㉖ 妻が食事をしている間、家の中を歩いたり、テレビを見たりして、うろうろしていた。

問 41. 行方不明時に一緒にの人の特記事項

- ① 田が3ヵ所にあるので「見まわりする」と言って出かけたり、だまって出かけたりする。
- ② (愛犬) ペットと一緒に
- ③ 自宅を出る時に自宅に庭に居た自分と言葉をかわして出て行ったがはっきり聞き取れず買物に行くと言われた様に思う。
- ④ 本人は主屋、私は別室でねていた。
- ⑤ 1人で寝ていた。
- ⑥ 配偶者は別の部屋で家事をしていた(寝ていたのだ)。
- ⑦ 家の内からカギを開け、出られました。午前中(お昼頃)から捜しましたが夕方になっても見つからず通報した。
- ⑧ H25・9・27日、私(妻)と畑にいた。5時過ぎ夫は軽トラで帰る。6時近く私在家にもどる。軽トラがない。車庫に電気がついているので夫は1度家に帰ったらしい。免許証もケイタイも持たずにいなくなった。ケイサツに連絡する。翌日昼近くケイサツから保護の連絡
- ⑨ 家族が一瞬いなくなり、1人になった時、いなくなった。

問 42. 行方不明兆候の特記事項

- ① 自分の家に帰る道がわからなくなる。
- ② 母の自宅に帰宅しようとした。よるになると落ち着かなくなる。
- ③ 自分の家がわからない事、本人の名前書く他だめです。友人も名前が思い出せない。
- ④ 大晦日で、明日、出かけなければいけないか心配していて、いつもより、少しおちつきはなかった。ベッドに入ってから二度起きてきた。私が朝から出かけることは言ってあった。
- ⑤ 息子(同居していない)が迎えに来ると道路で待っている事あり。1hで戻ってきて来ないとあきらめて落ち着く事が度々あった。
- ⑥ 当時、とにかく、外に出たがるので介護の私(長女)とひ孫と毎日のように散歩はしていましたが、一人でちょっとの間に出られ、夕方まで捜し回ったのですが見つからず、警察に通報し、夕方もすぎ暗くなって来たので、警察犬を依頼した。
- ⑦ 冬の間は寒い家から外に出ることはあまり無かったが、春先になり少し温かい日もあり、外へ出る回数が増えていった。

問 43. 行方不明直前の状況の特記事項

- ① 時間の感覚に時々ズレが見られる事があった。朝食の準備する時が早かったり遅くなる時がある、30分位前後する。
- ② 前夜、少しおちつきがなかった。
- ③ まだらな症状で、その時によって。
- ④ 多分、夜に姪が助けてと言っているとか本人の中でいろいろな妄想があったので。
- ⑤ 今日が何日かわからないこともあった(たまに)。
- ⑥ 暴力
- ⑦ 現在の居住地には5年前に引っ越してきたが、前に永年暮らしていた所にも戻れない日が何度かあった。
- ⑧ 認知症がさらにすすみ、要介護5となった。

問 45. 病気・怪我の特記事項（選択肢 5 の内容を含む）

- ① 腰の曲がり
- ② 食欲が低下し、体重がどんどん減少。
- ③ ひん尿やぼうこう炎
- ④ 睡眠が浅く、落ち着きがなかった。
- ⑤ 夜に妄想が出ていた。人がしゃべっている（妹達→子供）が、ぶつぶつ文句を言っているとか。
- ⑥ 糖尿病、高血圧等
- ⑦ じん臓が悪くなったため、食事が少なくなった。
- ⑧ 2年前、膀胱がんの手術をし、腎臓も悪くなり、薬を飲めば下痢をするため、薬も飲まず食欲もなかった。
- ⑨ 身体は健全
- ⑩ 現場をみていないが、多分、前のめりに歩いているうちに転倒してひたいを切り、外科に行き治療してもらった（切れた所を縫ってもらった）。
- ⑪ 水分をとらなくなった。
- ⑫ 脱水で3回病院へ、その度、レベル低下を起こしていた。
- ⑬ 転倒、顔ケガ
- ⑭ 寒さや暑さの感覚があまり無いようだった。歩くのがゆっくりになり、転ぶと起き上がれないことがあった。

問 46. 行方不明対策の特記事項

- ① 母が亡くなったばかりだった為、親戚、兄弟で注意はしていた。
- ② 家のまわりだけを散歩していいよと話していた。
- ③ 3時間さがして見つからないと、行方不明に出してました。
- ④ 携帯電話やGPSを持たせようという試みは失敗。戸締りはとじこめられたとパニック/興奮を高めた。
- ⑤ いつも目を離せなかった。鍵を増やす等したが効果なし
- ⑥ 今、考えてみるとセンサー設置、SOSネット、GPSなどの対応をしておけば良かったと反省してます。
- ⑦ 急速に進む状況のなかで対応策の知識不足で困惑し切った。

問 49. 警察以外の捜索活動参加者（選択肢 7 の内容を含む）

- ① 携帯に電話する（本人のズボンにくさりできれないようにとりつけてある。生きていることはわかるが、どこにいるかは本人が言えないのでわからない）、家族に連絡して探してもらう、警察に捜索願いを出す。
- ② ケーブルテレビ、防災無線等、ポスターをつくり配ること等、手をつくした。
- ③ 親族
- ④ 家のまわり、いつもの散歩コースなど。
- ⑤ 知人、友人等
- ⑥ 町内会、主に役員の方々
- ⑦ 自宅の2階の部屋内のビニール袋の山の中にうもれていた。
- ⑧ 他市の警察から連絡が警察にあり。
- ⑨ 警察
- ⑩ 夜中にいなくなり翌朝に見つかったため、他の応援は頼まなくて済みました。
- ⑪ 朝起きたらベッドにいなかった。私1人で近所まわりを1時間位さがし、その後、警察、消防団、みなさんで捜索してもらいました。2日間してもらいました。
- ⑫ 発見できたのは4日後です。おとなりとか、近くの物置とか見ていただきました。●公園などよく行くので、皆様が重点的にみていただき、4日目にそばの方がケイサツに連絡してくれました。13年夏だったそうで命だけは助かりました。皮フは化膿、肺炎でやっと入院することができました。何回も徘徊しているのでお願いしましたが出来ませんでした。その様な時は何とかありませんか。本当に泣きました。
- ⑬ 地元消防団の方々が2日間捜索して下さいました。
- ⑭ 隣組の方が、おばあちゃんが「ウチにきてるよ」と教えてくれた。
- ⑮ いなくなった後、電話をかけてくださった人がいたが、配偶者は寝ていると思い込んでいたので、気にしなかった。その後、いないことに気づき、家族で捜したが見つからなかったので届を出した。町内放送され、捜索していただいて昼前に発見された。
- ⑯ 警察の方が来て、うつ病であると伝えたら警察犬を呼んでくれて捜索をしてくれました。夜10時頃にきてくれたので、夜遅くまで近所を探してくれました。
- ⑰ 防災無線の使用
- ⑱ 市の??、近隣、懲戒
- ⑲ 主に自宅周辺の場所から近隣の町会へと範囲を広げ捜索しました。

- ⑳ 警察、消防（消防団含む）、自治体職員、友人、知人、●救助犬協会。行方不明後、11日目に死亡していた。
●救助犬協会と知人友人には、特別に協力していただき感謝している。のべ約1400人。
- ㉑ 当日、昼頃に家を出てから、介護者とひ孫とで捜したが見つからず、4時過ぎに警察に依頼したが捜せなかった為に、警察署の方の提案で暗くならないうちに犬を要請し捜した方が良いのではと言われ警察犬を頼んだ。が、警察の人が見つけて下さった。
- ㉒ 主人が仕事のため、母は無力。私が1人で近所を回る。警察にお願いするしか手段がない。→行方不明者のメール、地域不明者放送をお願いする。
- ㉓ FM放送利用、コンビニ等への顔写真を作って訪ね人として貼ってもらった。
- ㉔ 私と警察が主でした。私の電話番号を身につけておきましたので、他人からのしらせもかなりありました。
- ㉕ すぐに警察に届出て、有線放送も依頼実施、ケアサービス、自治会、SOSネットワークなども協力してもらい、「訪ね人」のビラも作り配布。又、防犯カメラのチェックなど、いろいろな捜索をした。地方局のラジオ放送もしてもらった。
- ㉖ 親戚
- ㉗ 夜にかけての捜索であった。警察は近隣の地域を広範囲にわたって探してくださり、ラジオによる放送もあった。近所の住民や消防団は主に近くを探して下さい。夜10時頃、捜索は打ち切りとなり、翌朝早く再開する。明るくなったので近所の方がすぐに発見して下さい。

問 53. 発見者（捜索参加者）

- ① ケイサツ
- ② 警察
- ③ 警察
- ④ 地域の人
- ⑤ 消防団
- ⑥ 社会福祉協議会の方
- ⑦ 警察署
- ⑧ 警察官
- ⑨ 警察の方が、コンビニとかタクシー会社
- ⑩ 警察官
- ⑪ 警察
- ⑫ 警察、家族
- ⑬ 警察官
- ⑭ 一般、町職員、警察、消防団他、消防署
- ⑮ 警察
- ⑯ 警察
- ⑰ 消防団員
- ⑱ 子
- ⑲ 警察署の方
- ⑳ 警察からの連絡
- ㉑ けいさつの方
- ㉒ 近所の人達
- ㉓ 近所の方

問 53. 発見者（それ以外の者）

- ① 民家家主
- ② 発見場所近くで農作業していた人
- ③ 通りすがりの通勤途中の方が、救急車を呼んでくださって、わかりました。
- ④ 散歩中の人
- ⑤ 発見現場付近の方
- ⑥ 県警のパトロール
- ⑦ 狩猟をしている地元のグループの方々
- ⑧ 警察署から連絡を受けた（担当区域外の署）
- ⑨ 警察署の方
- ⑩ 最後の回は届出せずに発見できた。
- ⑪ 放送を聞いて発見した近所の人からの通報によって
- ⑫ 孫

- ⑬ 警察
- ⑭ 発見された場所を通りかかった他人
- ⑮ 必ずコンビニにより 2～3 時間そこにいる。店長の方からの通報で見つかる。
- ⑯ 警察
- ⑰ 作業中の方
- ⑱ 人の車に乗っていた所を発見された。
- ⑲ 本人がつけていた電話番号を見つけた人
- ⑳ 川で発見され、川の止水せきの係員
- ㉑ 発見場所の近くに住んでいる人
- ㉒ 本人が TEL してきた。
- ㉓ 通行タクシー～警察
- ㉔ 山菜取りに来た近所の方

問 55. 発見経過の特記事項

- ① 今はデイサービスを利用しているので、運転手の方が姿を見かけたら教えて下さいます。
- ② 消防団、市役所、地域の方の協力があつた。ケーブルテレビにて放映、防災無線による放送、防災ヘリの出動、近隣の商店等にポスター配布、知人、家族、親戚の協力。
- ③ 警察、消防団員、すぐに捜索活動してくれた。
- ④ 別添資料ご参照ください（※厚生労働省からの添付無し）
- ⑤（問い 5 4 欄外に SOS ネットについて）そういうのが、あることすら知らなかった。
- ⑥ 警察に届けが他市警察よりの連絡で解かり迎えにってもらい地域消防団、地域自治体の方々にお世話になり感謝です。
- ⑦ 二日間は、警察、消防団、近所の方々に協力してもらいました。その後は、身内だけでさがしました。写真付きのたずね人のプリントをしないの商店等に願いました（200 枚位）。後は、日曜日だけは身内で集まって色々さがしました。山間部なので山は個人ではなかなかきけんなので入れませんでした。2 日間は、山の中をみなさんでさがしてもらいました。45 日後に地元も狩猟グループの方に発見してもらいました。
- ⑧ 色々な情報が飛びかい、家族が精神的にダメージを受けました。
- ⑨ 警察の方がすぐに巡回していただけたので、すぐに発見できたので感謝いたします。
- ⑩ 26 年度になって、認知症のことが報道されるようになり、警察の方の理解も深まったような気がします。他の人もそうだと思います。啓発も、地域で見守っていくことが大切だと思うし、家族にとってもそれはありがたいことだと思います。今回のアンケートが何らかの形で役立つことを願っています。よろしくお願ひします。
- ⑪ 防災無線で呼びかけをするか、と問われたが、今回はしませんでした。夜にひょっこりタクシーに自分で乗って帰宅してきました。
- ⑫ 防災無線の利用は有効であった。
- ⑬ 捜索にあたり色々な方の協力を得て（亡くなってはいましたが）無事に発見出来て感謝しています。
- ⑭ 救助犬協会、初日からお願いすれば良かった。
- ⑮ 家族が探し回る事が多かった。警察に頼むと、包括支援センターから中傷される為
- ⑯ 警察に捜索依頼し、タクシーその他、ラジオにて、公に報じて捜索手段をうながしてもらいました。警察犬は出動してこちらに向かわれている間に、自宅近くの大きな建物の西方の田んぼの畦道にすわり、冷たくなった本人を警察署の方に見つけて頂きました。無事に見つけて頂き本当にありがたく感謝しております。
- ⑰ その時は、ネットの事を知らなかった。
- ⑱ 川で遺体で見つかり警察に保管され、解剖に 1 週間、さらに DNA 鑑定と葬儀まで 1 ヶ月以上かかった。DNA 鑑定が時間がかかり、必要性があるのか（あととのためかかも知れないがスピーディーにできないものか）
- ⑲ いつも本人から目をはなさない。

問 58. 発見後の経過の詳細

- ① 病院で点滴をしてもらい、帰宅しました。
- ② 現在も金銭的に施設入所はかなり難しいのが現実なので、自宅で介護し、見守っている状態です。

問 58. 現在の状況の詳細

- ① デイサービスを週 5 回利用して改善している。
- ② 8 月末に誤嚥性肺炎で入院し、9 月上旬に少し回復しましたが、9 月末に窒息で亡くなりました。
- ③ 平成 25 年の 9 月に一度いなくなったのを機会に入院して 4 ヶ月間精神科で、その後、ケアハウスに入所。

H26. 12月末に病気うつ病再発の為、現在h入院中（精神科）

- ④ 精神科で様子を見ている
- ⑤ 現在介護認定3。自宅にて私（長女）がみています（介護している私（66才）は働きたいと日夜考えていますが、現在66才の介護人は現金収入得たい為）。病院へは月1～2回受診して、デイサービスへは週3回通所させて頂いてる状況です。できれば入所（デイサービス）を週4回にしたいのですが、介護人（66才）の長男が他界してるため経済的に無理なので。

問 59. 発見後の経過の特記事項

- ① できるだけ だれかがそばにいるようにしている。・デイサービスに週2回通い、家族の者が家の仕事を落ち着いてできるようにしている。本人はいやがらずに通所し、笑顔が見られる。
- ② 施設には入所しなかったのですが、デイサービスを週5回に増し、土日などは、目を離さずに注意して見ているようにした。時々、ショートステイサービスも利用させてもらっている状況です。
- ③ 発見後、見守りの携帯電話（GPS付きを契約し、常時ハンドバッグに入れて外出して、帰りが遅いときなど利用していました。行動をとめるのではなく、思うようにしてもらう方が認知症がすすまないときいたので、この頃は、いつも夫婦二人で毎日のように外出していました。私の家の留守電ボタンをずっとつけて、いつでも何でもかかっているようにしました。その後、一人になった母が、1度外出し、自分がどこにいて、どこに行こうとしているのかわからなくなったことがありましたが、見守り携帯で探し当て、事なきを得ました。きのうまで、ふつうにできていたことが、今日、わからなくなていなくなるのが認知症であり、老いだと思います。外出していく父母を見送りながら（私には仕事があるため）事故なく無事で帰ってきてくれますように、街の皆さま、お願いしますと祈ったものです。皆、親切にやさしく接してくれて、父母と同行したときには感謝の気持ちをかかわる人たちに言って回りました。父母が認知症みだど話してしまうと、意外とみなさん、やさしく、よくして下さい、協力もしてくれました。
- ④ 高齢者が安心して暮らし、老いていけるようよろしくお願いします。
- ⑤ 16:00頃、駅構内の混雑の中ではぐれた。本人は●で●方面に帰ろうと思っていたと思われるが、反対方向の●方面（●）に乗った様で、終点で降りて自宅に帰るつもりでさまよっていたところを、翌日の12:00頃、県警のパトロール車で発見された。16:00頃ははぐれる。以降翌日の朝まで警察に届けると共に、娘を呼び、付近を捜す。翌日、10:00頃●署へ捜索願を出す。12:00頃、●県警より、発見の知らせがあり、16:00頃、引き取り帰宅。徘徊について見てる私も大変ですが、本人もただ歩くことで向きもわからず、夏の場合、はだかを着ている物もクツもぬいでただ歩くことなのです。私も今80才、いつまで見る事が出来るか私が認知症になったらと思うと心配です。
- ⑥ 入院は3ヶ月でことわられ、今は3ヵ所目で入院しています。現在の病院で、一度退院のことを聞かれましたが、どこに入院出来るのか聞きたいです。ショートステイもいいですが、老人ホーム、老人病院の事を考えて下さい。経済の事も心配ですが、そこは頑張って行こうと思います。在宅介護は大変です。我が身になってわかりました。20年精神科に勤めていましたが、こんなに今の制度に苦勞するとは思いませんでした。自宅介護をしてみないとわかりません。介護制度をみなおしてもらえれば幸いです。家族による殺人事件が多くなりませんか。
- ⑦ 本人への見守りと声かけをして絶対に1人にはしない。介護サービス利用して本人が楽しく毎日自宅で生活している。同じ部屋で孫（20才）と一緒に寝ている。まだ失禁等には至らず、ホットしている所です。
- ⑧ 発見後は入院治療をして約1年間は自立でケアハウスにいて落ち着いていましたが、何かのきっかけなのか病気が再発、薬を飲んでいなかった為なのか（精神薬）不明ですが、又妄想が出て（家族からのいじめ→本人曰く声だけ聞こえて悪口とかうるさくさうとさわいでいるらしい、あとお金を取られたとか、家が焼かれたとか）入院療養中、うつ病と認知症は違うにか!?
- ⑨ 医師より死亡証明書が出るのに時間がかかった。地域包括支援センターに相談しても、相談員が替わると最初からの話をしなくてはならず、時間と対応方法の仕方が判りにくくなる。台帳処理をするようにしてほしい。
- ⑩ 行方不明になった場所から約50mのところまで死んでいた。誰かが捜したと思い込んで、それ以外の遠くを捜していた。もっと捜索活動の連携や、救助犬協会（無料）をせめて2日目から利用すれば良かった。
- ⑪ 捜索願を出すと、自治体の包括支援センターの担当者から各所に家族を中傷する手紙、電話を広められ、大変迷惑し、精神的にも困ばいた。症状が軽度の初期の段階から、いきなり精神科棟への入院を求められ、費用も高額で本人の人格を尊重したかった為、断ると、家族の人格、経歴等、誹謗中傷する手紙を関係先に配る等、包括支援センターの担当者に嫌がらせを受けた。例えば、「認知症の原因は妻子のせい」などの記述がある手紙を医師に内緒で送付したりしていた事がわかり、家族は精神的に大変な打撃を受け、生活もままならず、結局、精神科病棟に入院させるしかなくなった。本人の介護より、むしろ包括支援センター職員の中傷により家族は疲れ果ててしまった。
- ⑫ 国あるいは県・市への要望 老人介護等々関係している方々にぜひとも考えて頂きたいお願いがあります。要望です。質問にはない件についての余計な事ですが、是非検討し、考えて頂きたいことがあります。本人